

中国との違いを しっかりと勉強します

「大連市は、中国遼東半島の最南端に位置し、中国東北地域が世界とつながる重要な対外貿易の拠点です。工業、観光の両面で世界から注目されている港湾都市でもあり、アカシアのまちともいわれています。人口は、約500万人で日本の企業も3千社ほど進出しているんですよ」と話す張さんは、大連市青年旅游協会で、副秘書長を勤めています。

「大連市青年旅游協会ではわたしは日本を担当し、観光客の誘客や民間の旅行会社へのアドバイスなどをしています。職場の上司にこの研修を勧められ、少し悩みましたが、6カ月もの間、外国で生活することは、自分の人生においても仕事においてもプラスなると思い決めました。登別に來てから約1カ月間、一般行政について研修を行い、8月からは観光行政を学んでいます。日本の観光行政は、どのような役割を果たしているのか、ホテルのサービスやシステムはどのようなものになっているのかなど中国との違いをしっかりと勉強して、大連に戻ってからホテルなどにアドバイスしたいです」と研修に対する意気込みを話してくれました。



多くの方と交流し たくさんの方のことを覚えたい

「研修先が登別に決まり、インターネットなどで登別のことを調べましたが、温泉に関する記述が多かったですね。大連には温泉が1カ所しかなく、露天風呂の文化がないので、すごく楽しみでした。先日、温泉に入り、露天風呂にも入りましたが、外の景色を見ながらの入浴は素晴らしいですね」と温泉入浴体験を話してくれました。

「7月に子どもが産まれ、中国に帰りたいと思ったこともありましたが、それ以上にここにいたいと思う気持ちが強いので、頑張っただけです。帰国する11月21日までの間、多くの方と交流し、たくさんの方のことを覚えたいです」と笑顔で話してくれました。



KIRARI

ジャン シーグアン
張 時光さん (大連市)

市は、国際交流事業の一環として、総務省が行う自治体職員協力交流事業の協力交流研修員を受け入れています。

協力交流研修員として、登別市の一般行政や観光行政などを学ぶため、中華人民共和国の大連市から5月21日に来日、6月22日から登別市での研修を始めた張時光さんに研修の意気込みなどをお聞きしました。

登別での経験を帰国後の仕事に役立てたい



▲大連市

1978年大連市生まれ27歳
大連外国語学院日本語本科卒業。現在、大連市青年旅游協会に勤める。大連市に居住。